

風に流される虫



東洋産業だより

Vol. 176
2018年9月号

今年も猛暑日が続く、9月も平年より高い気温になりそうです。このように予測が出ています。とはいえ、秋の気配も少しずつ出てくる頃でしょう。

秋の気配のひとつに心地よい「風」がありますが、風は厄介者も運んでくれます。

体の小さな厄介者、虫たちは風の流に乗って移動します。風が建物に流れ込む、または建物が空気を吸い込んだりすると、虫も一緒に吸い込まれてしまいます。

ではどうしたらよいでしょうか。今回は風に注目して考えてみましょう。なぜ皆様の建物に外から空気が入ってくるのでしょうか。物事は「強い方から弱い方へ」流れます。空気が流れて何かにぶつかつたら、何も無い方へ流れます(図1)。

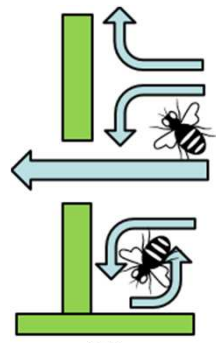


図1 空気の流れのイメージ

また、空気を追い出して薄くなつたら(↑)、濃い方から流れ込みます(↑)(図2)。

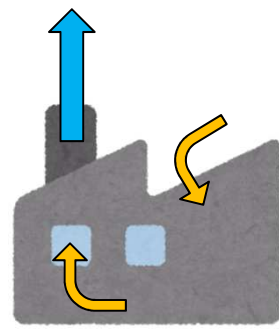


図2 排気中の空気の流れ

例としてこういった流れがイメージされますが、風の流れは目には見えません。それを見るには見えるのが風向・風速データです。更に捕虫データを加えてみると、見えなかったものが見えるようになってくる場合があります。

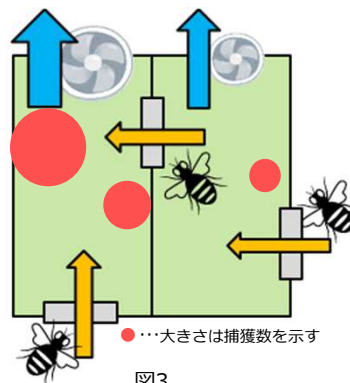


図3 気流と虫の捕獲を重ねると…

図3は実際の事例を模式図にしたものです。製造室が常時排気(↑)で陰圧になっており、廊下から自然吸気とともに虫が侵入(↑)、捕獲数は図のような状態でした。現場の方に確認すると常時排気は必要ないものの、出勤後に照明点灯の流れで同時にスイッチを入れていたとの事。そこで、排気の稼働を製造中のみで限定して頂きました。その効果は大きく、継続実施して頂いた8月度の飛翔昆虫捕獲数(●合計値)は、昨年8月度から45%もの減少がありました。手軽に実施できる防虫という事で、現在も継続して頂いています。

このように、費用をかけずとも意識を少し変えるだけで対策は実施でき大きな効果を得られることがあります。前述のお客様からは製造室の給排気設備改修のご相談を頂き、調査データがあることで、ご検討が良い方向へスムーズに進んでいます。

弊社では風向・風速の計測やデータを基にした対策のご提案も実施しております。工場環境を調べる際にはご相談ください。

漢字の中にある虫

「風」という漢字をよく見ると中に「虫」が居ますが、何故このように書かれるのか皆さんご存知でしょうか。諸説あるようですが、ここでは代表的な説を1つご紹介します。

古代の中国では風を起こすのは大きな鳥の姿をした神様だと信じられており、それを表した漢字が「鳳」でした。年月を経て、その神様は鳥から龍に姿を変えます。それと共に「鳳」の鳥の部分も龍などを表す虫へと変化し「風」となつたと言われています。

虫を含む漢字には、必ずしも昆虫を指さないものも多くあります。もともと「虫」の文字はマムシを指し、昆虫とは無関係でした。では昆虫を指していたのは何かというと、魚・鳥・獣以外の動物を表現していた「蟲」に含まれていたのです。しかし、次第に「蟲」の略字として「虫」が使われるようになり、そのため、その後で作られた漢字で虫偏を含むものは、昆虫から貝類まで幅広い種の動物を表しているのです。

普段何気なく使っている漢字ですが、成り立ちを調べてみると昔の様子が浮かび上がってきます。皆さんも、気になる漢字を選んで成り立ちを辿ってみてはいかがでしょうか。



東洋産業株式会社

本社 岡山市北区新屋敷町3-19-20

TEL 086-2241-8080
FAX 086-241-8094

拠点 大阪・姫路・岡山・倉敷・福山・広島
高松・松山・金沢

www.to-yo-s.co.jp
(バックナンバー掲載中)